

当院の平成 25 年度 D P C 指標と今後の課題について

佐藤 慎介
Shinsuke Sato

NHO 旭川医療センター 診療情報管理室

1. 全 体

厚労省の平成 25 年度 D P C (Diagnosis Procedure Combination

：診断群分類) 公開データを基に当院の D P C 指標を作成し、疾病の傾向、地域でのポジション等の分析を行った。

当院の診断群の傾向は、呼吸器系、神経系、消化器系の診断群が他の診断群に比べると突出して件数が多い。神経系は、効率性指数、複雑性指数共に高いが、呼吸器系、消化器系は効率性指数が低く、複雑性指数が高い。(図 1 参照)

全体として、近隣他施設と比較すると、効率性指数は低く、複雑性指数は高い傾向であった。

当院の特徴として、同じ D P C の患者の平均在院日数が他施設より長く、診療効率が低めとなっている。しかし、より重症度が高い入院期間が長く設定されている D P C の患者を多く受け入れている。(図 2 参照)

2. 神経系

神経系は、効率性指数、複雑性指数共に高い数値であった。(図 3 参照) 月平均患者数は 53.9 名で道内第 13 位、2 次医療圏内シェアは 21.2% であった。

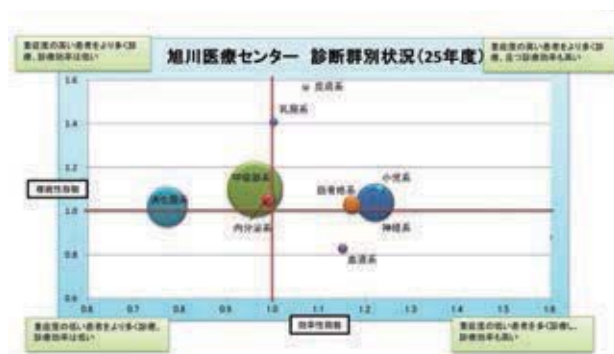


図 1

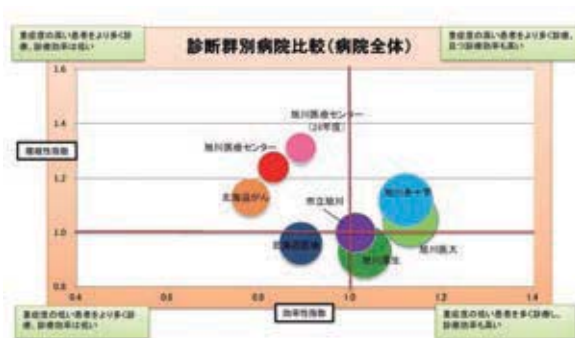


図 2

代表的な疾患として、パーキンソン病(手術なし)は年間 222 件で全国第 1 位、平均在院日数は 17.0 日で道内で 4 番目に短い。

佐藤 慎介 独立行政法人国立病院機構 旭川医療センター 診療情報管理室

〒 070-8644 北海道旭川市花咲町 7 丁目 4048 番地

Phone: 0166-51-3161, Fax: 0166-53-9184

E mail: shinsuke@asahikawa.hosp.gp.jp



図3

3. 呼吸器系

呼吸器系は、効率性指数は低く、複雑性指数が高い傾向であった。(図4参照) 月平均患者数は117.6名で道内第6位、2次医療圏内シェアは30.7%であった。

代表的な疾患として、肺の悪性腫瘍(手術あり)は年間54件で道内第14位、同じく(手術なし)は767件で道内第2位、慢性閉塞性肺疾患(COPD)は77件で全国第7位、道内第1位であった。

4. 消化器系

消化器系は、呼吸器系と同様に効率性指数が低く、複雑性指数が高い傾向であった。(図5参照) 月平均患者数は、61.1名で、2次医療圏内シェアは6.8%であった。代表的な疾患として、小腸大腸の良性腫瘍(ポリペクあり)は年間77件であった。

5. 筋骨格系

筋骨格系は、効率性指数が高く、複雑性指数は平均的な傾向であった。(図6参照) 月平均患者数は、12.2名で、2次医療圏内シェアは7.9%であった。代表的な疾患の関節リウマチは年間50件で道内第8位であった。

6. 内分泌系

内分泌系は、効率性指数、複雑性指数共に平均的な数値であった。(図7参照) 月平均患者数は、7.3名で、2次医療圏内シェアは5.6%であった。代表的な疾患の2型糖尿病は年間41件であった。

7. 当院の今後の取り組み課題について

当院は、全体的に効率性指数は低いが複雑性指数は

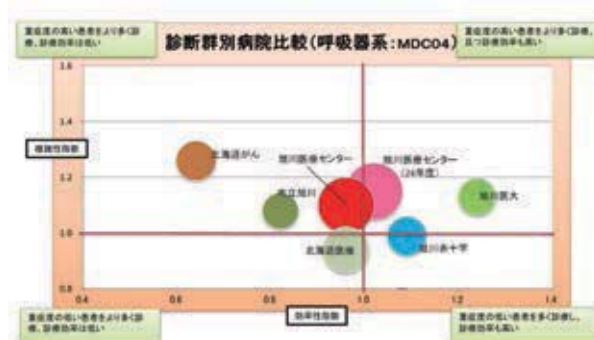


図4



図5

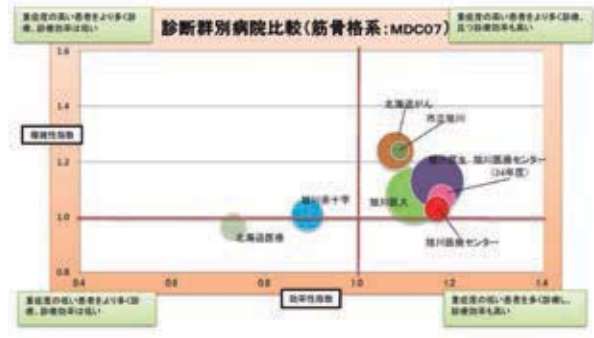


図6

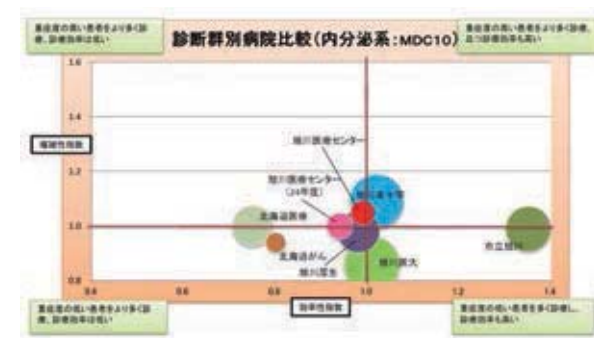


図7

非常に高い。今後の取り組みとして、重症度の高い患者を引き続き積極的に受け入れ、近隣随一の高さの複雑性指数を維持していき、同時に当院のウィークポイントである、効率性指数の改善を行う必要がある。そ

のためには、クリティカルパスの利用拡充、地域連携の強化による新患確保及び適時退院の促進等による、平均在院日数の短縮がさらに必要となってくる。その結果、病床利用率の引き上げに繋がると考える。

当院の代表的な疾患については、患者数で全国、全道で上位に入っているが、消化器系、肺の悪性腫瘍手

術ありについては、まだ伸びしろがあるように考える。

参考文献

『厚生労働省DPC評価分科会資料「平成25年度DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」の結果報告」』